

かぜ・そら・たいよう クラスだより (2月)

イエス様の聖誕劇をそら、たいようぐみの子どもたちが遊びの中でしていると、かぜ組の子どもたちにも広がり、素敵な歌が聞こえてきました。みんながイエス様を身近に感じ、大昔にお生まれになったことを知り、今でも見守ってくださっていることを感じながら過ごしていきたいと思ひます。

2023.12.28 円町まぶね隣保園

かぜぐみ クリスマス飾り作

11月下旬頃から散歩先でドングリや実を宝物を見つけるようにして喜んで拾っていた子どもたち。そんな自然の宝を使い、クリスマスのプレゼントはリースを作りました。リースを作ることに決まったら「これ使えよう!」「見つけたよ〜」と次々に拾い集める姿がありました。そして散歩の翌日には「何を作る?」と必ず聞く(ほとんども楽しみにしていました)。作り始めは木の枝を使って組み立てます!それぞれがササギをイメージして長い枝をそのまま使ったり短く折ります。くっつけるのにホントを使用したので、すぐには固まらずドングリ等の飾り(は別日に。乾いているか気になってこそと見ていました。飾りつけでは好きな位置にのせて黙々と飾る子どもたちです。枝からドングリや実が落ちてしまい「くっつかない」と少し難しそうにしていたか、あきらめることなく沢山「ホント」をつけてみたり位置を変えてみたりして工夫していました。ササギの色、物にこだわって世界に1つしかないリースが完成しました。

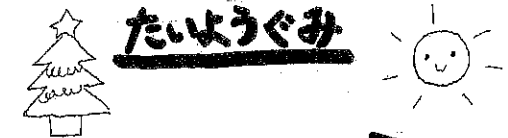
身のまわりのこと

おやつを食べた後は洗濯物をリュックに入れて自分たちで帰る用意をしています。初めはうっかり忘れて...なんて姿もありましたが、今では進んで行なっています。スーパーの袋を結ぶこと(は少し難しそうですが)最近では子どもたちの方から「ぼろぼろにしてどうする?」と自分たちでやりたい気持ちが出てきました。一緒にしていく内に一人で結べるようになった子どもの姿もあります!また、当番活動では憧れのそら、たいよう組さんと同じように食事の前にお祈りをします。初めは自信がなく小さかった声もどんどん大きくなり、今ではお当番さんがして毎日「今日、誰と誰?」「お当番さんがいい!」と言っています。友だちと一緒に前に立つことも嬉しいようです。生活の中で「自分ごと」「できた」という喜びを感じ自信に繋がっていくといいなと思ひます。

そらぐみ

クリスマス クリスマス、ありがとうございます。昨年は、クリスマスごっこを見た、友だちが口ずさむ歌を聞いていたのですが、今年は、聖誕劇の宿屋でクリスマスに参加しました。11月から、まずは、そら組だけでクリスマスごっこをして、少しずつ、たいよう組と一緒にするようになりました。はじめは、保育者と一緒に歌をうたい、段々、掛け合いを楽しむようになりました。クリスマスごっこで、実際に衣装を着てみた時には、非現実的な雰囲気、気分が変わり、嬉しそうにいました。当日は笑顔だったり、少し不安そうな表情での登園でしたが、「きんちゃん」や「おんちゃん」と言いながらも着替えをしてはうちに、普段の姿になりました。しかし、ホールに入場すると、11月も違う雰囲気や、たくさんの保護者の方たちで、「キッ」と気持ちを引き締まっていたように見えました。クリスマスごっこの時に何度も見ていたたいよう組の火燭火礼拝を見たか、この日も、じっと見ていました。聖誕劇では、直前のクリスマスごっこで変更になった立ち位置も覚えていて、「もうお宿屋さんの出番よ」と知らせると、子どもたちだけで進めていました。最後の、みんなが前に出て元気に堂々と歌っている姿がとても印象的でした。全てを終えて、2階の保育室に戻った時には、笑顔で「きんちゃん」や「たのしかった」と話していました。「たいようさんになったら何になる?」と聞くと、「マリアさん」「はかせさんがいい」などと言ひ、すでに憧れの気持ちを持っていました。クリスマスが終わり、クリスマスの絵を描きました。それぞれが印象に残ったことも、絵で表現しているのを見て、ひとりひとりがしっかりと心で感じるものがあったのだな、緊張や不安な気持ちも抱えて挑んだクリスマスだったかもしれませんが、ひとまわりもふたまわりも心が大きくなったように感じました。この経験も、自信につなげてほしいと思ひます。

今年一年も、ありがとうございます。4月からの9ヶ月で、心も身体も大きくなった子どもたちだと思ひます。引き続き、2024年もよろしくお願ひします。よいお年をお迎えください。



たいようぐみ

去年のたいよう組の子どもたちに憧れ、やっと自分たちの番が来たと思ひでいました。全員がクリスマスの意味を知っているわけではなかったので、最初は様々なクリスマスのお話や園長先生からクリスマスの話をしてもらいました。ぶっ遊びが好きな子どもたちは普段から遊んでいましたが、ほとんどやったことがない子どもたちもいたので、みんなの前に立ち、セリフをいうことに最初は慣れませんでしたが、毎日繰り返す中でだんだん大きな声になり、ただセリフを言うだけではなく、しっかりとその人の方を向き、ヨセフさんだったらマリアさんをいたわるなど、気持ちの細かいところにも注目して声かけをしてきました。常に言っていたのが、大きく、はっきり、ゆっくり、落ちついてするということです。後半につれて、だんだん自信がなくなっていたので、あつてるよということもみんなでも共有していました。毎日の活動の中でも、ぶっ遊びをするとなれば喜んでくれた子どもたちです。衣装を着ると、さらにやる気が出てきたようで張りきっていました。本番前日になりますが、12月に入り、毎日アドベントカレンダーをつけてきた最後の飾りをつけました。明日は本番という気持ちの中で不安な気持ちもあったと思いますが、楽しみの気持ちの方が大きかったようです。本番は笑顔でみんな来てくれた中で、普段と違うことに緊張している姿もありました。それでも、始めはやはりたいようぐみという姿でしっかりとやり遂げていました。礼拝や劇の中で保育者の声かけを思い出し、はたなっている姿や、おうちの人を見つけたのか、張り切っていました。全ての劇が終わり、2階の部屋に戻ってきた時にはどこかホッとした様子でした。最初はまとまりがあまりありませんでしたが、後半に向けてみんなが同じ気持ちになり、まとまったのかなと感じました。一つずつ大きな行事が終わるたびに成長を感じます。あと、3ヶ月で小学校に行く子どもたちですが、園での経験を思い出してくれるといいなと思ひます。

朝のお祈り

毎日お集まりを朝にしています。お休みの子どもを伝えたり、日付など、2人ペアで支えながら教えてくれています。中でもお祈りを緊張するようです。そのお祈りが今までは友だちの真似や、いつも同じ内容でしたが、最近では今後楽しみにしていることへの期待やみんなで見えたいという内容を自分の言葉で伝えられるようになりました。クリスマスの時にも、緊張するけど、やりたいという思いを伝えてくれたのですばいな思ひました。自分で考えて言うことが苦手な子どもたちもいますが、思いは心の中にあると思ひるので、きっかけを見つけていけたらいいなと思ひます。